

令和6年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

砥部町教育委員会
砥部町立宮内小学校

1 取組の目的

本町の中心に位置する宮内校区については、役場や消防署など主要な行政機関をはじめ、施設や住宅が多く存在し、災害時には防災の中心を担う地域である。

しかしながら、山間部にある住宅地の多くは、土砂災害警戒区域に指定され、風水害など土砂災害による被害が想定されているほか、豪雨災害や地震など大規模災害が発生した際は、町の中心となる宮内校区に多くの住民が避難することが想定され、災害時の混乱が懸念されている。

大規模災害時の混乱を少しでも緩和させるべく、本事業において、宮内校区内の宮内小学校を拠点校とし、モデル地域内の特徴でもある多くの行政機関や自主防災組織、地域防災士との連携を強化し、学校安全推進体制の再構築を図るとともに、本町の災害時の防災体制の連携の強化を図ることを目的とする。

また、本事業の取組を通じて、児童に防災について正しい知識や実践力を身に付けさせ、防災意識を向上させることで、災害に対して主体的に行動できる児童をあわせて育てることを目的とする。

2 取組の内容

【拠点校 宮内小学校の取組】

(1) 6月13日 防災マップ勉強会（5・6年生）

町危機管理室職員を講師として派遣し町防災マップの説明や、作成時のポイントなどについて勉強会を実施した。



(2) 7月16日 防災マップ作成フィールドワーク（5・6年生）

町危機管理室職員、地域の防災士を派遣し、児童と一緒に、通学路上に潜む危険箇所や災害への対応などを現地で見て回り、土砂崩れ、川の増水、道路の浸水、ブロック壁等の倒壊の危険があることに気付いたり、それに対する備えも考えられていたりすることを学んだ。後日、収集した情報を防災マップに整理した。この防災マップを活用し、災害発生時に安全な場所や危険な場所を確認

するとともに、いざという時にどのような行動を取るのがよいか、避難するルートは安全か近所の様子はどうなるのかなどを考えていくことに活用した。



(3) 9月8日 砥部町総合防災訓練参加（全校児童）

例年砥部町が実施している総合防災訓練を宮内小学校で実施。

町、自衛隊、医療機関、社会福祉協議会、気象台、消防署、消防団、自主防災組織、防災士、NPO法人、地域住民等が参加した。

ドクターヘリの離発着訓練、見学、気象台の出前講座、消防署による煙体験などの体験型訓練を実施するとともに、避難所運営の様子やパネル展示、防災グッズ展示などの見学や、全参加者を対象にした予告なしシェイクアウト訓練も実施し、学校と関係機関との連携により、大規模な訓練を実施した。

①気象台による出前講座



②予告なしシェイクアウト訓練



③煙体験



④避難所体験・防災グッズ展示



【段ボールベッド】



【避難所個別テント・仮設トイレ】



【防災グッズなどの展示】

⑤防災士・社会福祉協議会防災講話など



⑥県ドクターヘリ離発着訓練・見学



(4) 9月25日 防災参観日（全校児童）

① 非常食・防災グッズ体験【1・2年生、特別支援学級】

災害発生時に自分の命を守ることの大切さを学習するとともに、非常用の飲料水や食料を手にとったり、防災グッズを使ったりすることで、防災への関心を高めた。



② 非常食のひみつ【3年生】

非常食について、道具不用で水だけで作ることができることや、アレルギーにも配慮していることなどの工夫点を詳しく調べた。

また、実際に試食することで非常食への理解を深めることができた。



③ 私の防災リュック【4年生】

災害時に最低限必要となる持ち物のほか、自分自身や各家庭で必要と思われる物を考えさせ、自身の防災リュックを作成した。それぞれのリュックの中身について、情報交換することで、災害に対する備えに様々な考え方があつたなどの気づきを得た。



④ 机上避難訓練（防災マップの補強）【5年生】

作成した防災マップを活用して、机上避難訓練を実施した。避難場所までの経路にどのような危険が考えられるか想定し、安全な避難方法や日頃からの危険箇所の把握についてグループワークを行った。グループワークには、地域の防災リーダーや保護者も加わり、地域や専門的な視点のほか児童ならではの視点を共有しながら、防災マップの補強を行った。



⑤ マイタイムラインの作成【6年生】

土砂災害などの災害発生の危険が高まっているという情報を得てから、家庭でどのように備え、行動していくのか時間軸で区切りながらシミュレートしていくマイタイムラインを作成した。

町防災マップも活用し、保護者と一緒に、各家庭の環境や地理的状況など、全体を考えたタイムラインになるよう作成した。



地域の核となる防災リーダーや、児童の保護者も参加しての防災参観日を実施することで、各家庭での災害への備えや災害発生時の行動について児童と一緒に考えるよい機会となり、後日家庭や地域でも防災について話合うきっかけを提供することができた。

(5) 10月4日 ペット防災

町内NPO法人ペット防災サポート協会の協力を得て、ペット同行避難の重要性について学習する機会を設けた。災害発生時にペットが避難できず野生化するなどの問題を受け、同行避難の理解や日頃からのしつけについてワークショップ形式で学習した。



(6) 10月30日 松山地方気象台での学習【4年生対象】

課外授業として松山地方気象台を見学した。日頃、天気予報などで耳にする気象台という施設がどのような役割を果たしているのかを学んだ。また、災害が起こる仕組みについて実験や実物を交えて解説していただき、児童は災害に対する知識を更に深めることができた。



(7) 引き渡し訓練

引き渡し訓練内容を見直し、改めて保護者に引き渡しマニュアルを配布した。新たなマニュアルを基に引き渡し訓練を行い、保護者は子どもを引き取る手順を、子どもは引き渡し実施時の動きを、教職員は保護者に確実に渡すための動きを確認した。



(8) 学校防災計画の見直し

本校の防災マニュアルについて、学校安全アドバイザーである二神先生（愛媛大学准教授）からご助言をいただき、改善を図った。

【修正内容】

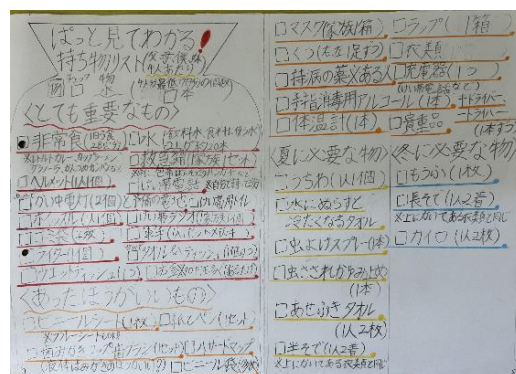
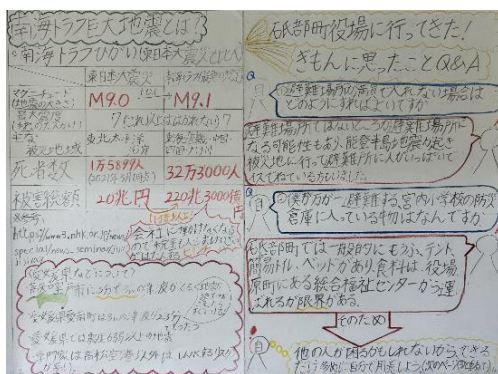
- ・学校対策本部を設置する場合の基準
- ・各連携組織への連絡体制
- ・災害時における地域や保護者との連絡体制
- ・避難所開設時の学校の役割など

2. 学校災害対策本部の設置		
名称	役割	準備物
本部	○教職員の体制及び配置関係及び決定 ○各部との連絡関係 ○非常持ち出し事項の搬出保管 ○校内の被災状況把握 ○記録日誌・報告書の作成等 ○校内放送等による連絡、指示 ○応急対策を決定 ○町の対策本部(防災担当部局)との連絡・情報収集 ○避難機関への連絡、問い合わせ等の対応 ○PTAとの連絡調整 ○情報収集	・緊急マニュアル ・学校の敷地図 ・ラジオ ・ハンドマイク ・懐中電灯（ろうそく） ・緊急通報の目録 ・トランシーバー ・携帯電話 ・乾電池
安全確保・避難誘導班	○児童生徒等及び教職員の安全確保 ○安全な避難経路で避難誘導 ○待機場所の確保 ○負傷者の把握 ○下校指導及び待機児童生徒等の把握・記録 ○揺れが収まった直後に負傷の程度を的確に把握 ○行方不明の児童生徒等及び教職員を本部に報告 ○児童生徒等及び教職員の搬出・搬入 ○負傷者や応急処置等の確認及び通報 ○担当区域で負傷者の搬出	・クラスの出発簿 ・緊急連絡帳 ・行方不明者の記入用紙（児童生徒等・教職員）
安全点検・消火班	○初期消火 ○避難、救助活動等の支援 ○被害の状況確認 ○校内内の被害状況を調査 本部への連絡	・消火器 ・ラジオ ・通話セット ・手袋 ・給水ポット ・給電ポット

(9) 教科の中で防災学習

5・6年生の国語科にパンフレットを作る単元があり、「防災」をテーマに設定して学習した。調べ学習や夏休みなどを活用し、児童自身が調査活動を行い、調べた内容をパンフレット形式にまとめ、児童の主体的な活動として、それぞれの視点において防災の知識を深めた。

なお、作品は5年生 69点、6年生 57点あり、県教育委員会主催の「愛媛県小学生防災学習コンクール」に提出し、6年生児童作品1点が努力賞、宮内小学校全体で学校特別賞を受賞した。



【愛媛県小学生防災学習コンクール努力賞作品「我が家の生活必需品マニュアル」】

(10) 少年消防クラブの創設・活動

本モデル事業を契機に、防災教育の普及と、将来の地域防災の担い手となる児童への防災教育の強化を目的として、宮内小学校に少年消防クラブを創設した。4年生を対象にクラブ員を募集したところ、19名の児童から応募があった。月1回のクラブ活動として、砥部消防署が中心となり、火災時の煙体験や、花火の後始末、着衣泳、広報車による防火の呼び掛けなど、多くの活動を実施した。今後も、4年生を対象に毎年度クラブ員を募り、活動を継続していく。



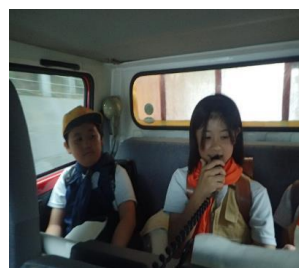
【入団式】



【初期消火訓練】



【心肺蘇生訓練】



【防火予防広報活動】

(11) 防災教育向上研修会

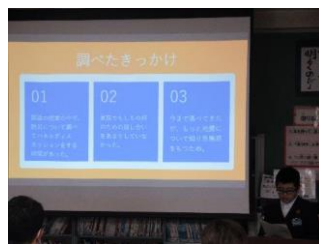
砥部町消防署職員の方を招き、防災リーダーとなる教職員を対象として、心肺蘇生法などの救急救命講習を実施した。

7月23日、町危機管理室防災担当職員を講師として派遣し、「防災マップ作成の意義」や「マイタイムラインの作成方法」について研修を実施。児童へ指導する際の手がかりやポイントなどについて講習を行った。



(12) 成果発表会（5・6年生）

12月5日、宮内小学校において本事業実践の成果発表を実施。5年生が作成した防災マップを各校区別に発表し、工夫した点や危険箇所の説明を行ったほか、6年生による、家庭の防災マニュアルの発表などがあり、事業の成果を、実践委員会委員の前で説明した。



【町教育委員会の取組】

(13) 実践委員会の設置

6月27日 第1回実践委員会 ※委員17名を委嘱

取組の方向性や実施内容、連携内容の確認

9月18日 第2回実践委員会

拠点校進捗の確認、モデル地域内の学校に対し、危機管理マニュアル等見直しに係る講習を実施

12月23日 第3回実践委員会 事業の成果報告



(14) 防災教育推進連絡協議会（参加者 100名程度 5・6年生、保護者、実践委員会委員等）

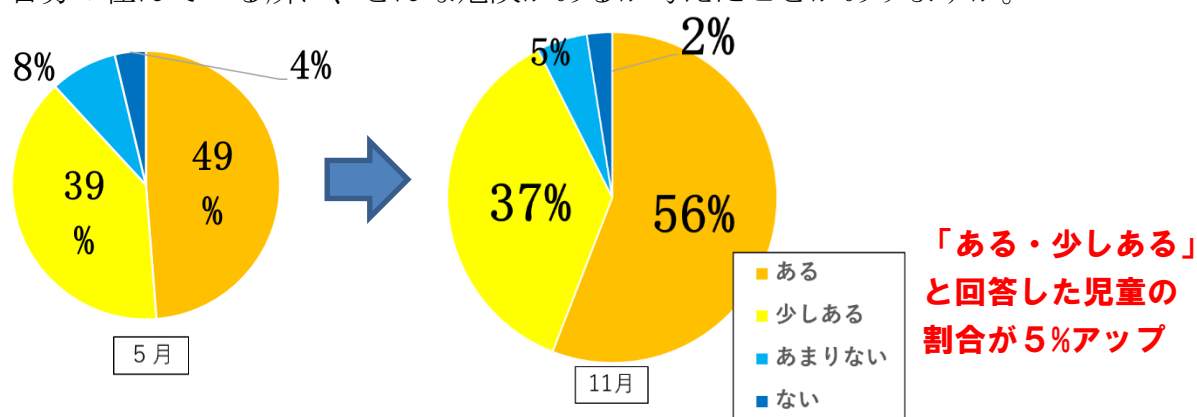
人権参観日にあわせ、「防災と人権」をテーマに、学校安全アドバイザーである愛媛大学の二神先生による講演会を実施した。講演では、大規模災害時における、長期化した際の避難所内での「プライバシーの確保」や、「女性・こども・高齢者・外国人への配慮」のほか「障がい者への配慮」など、多くの町民が避難する避難所での集団生活における、人権配慮について講義をいただいた。



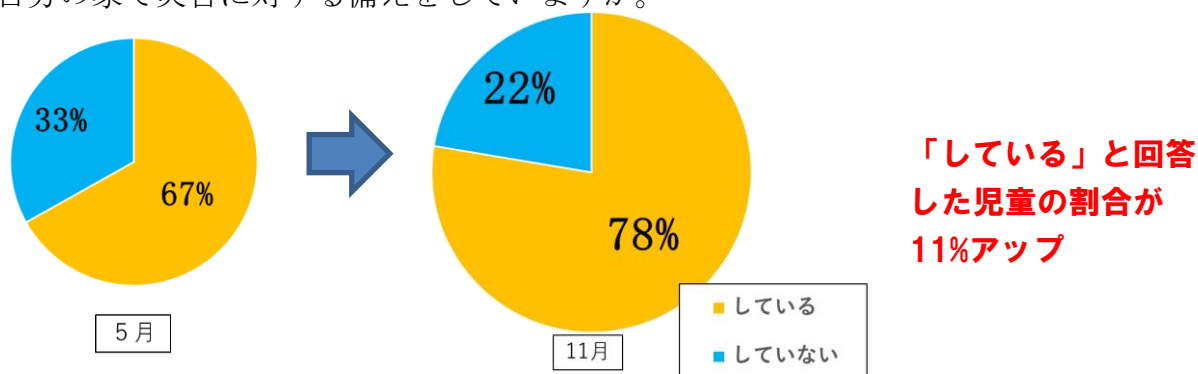
3 取組の成果

【アンケートの結果から】※4年生以上 160名回答

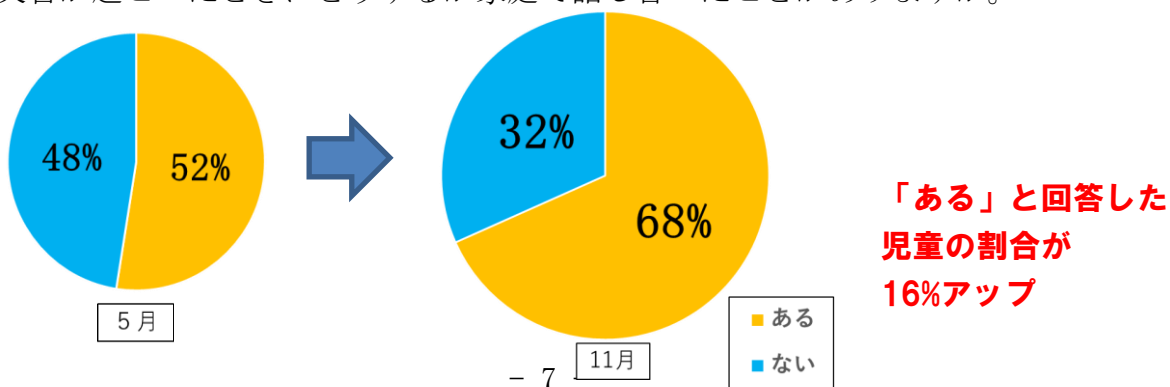
(1) 自分の住んでいる所に、どんな危険があるか考えたことがありますか。



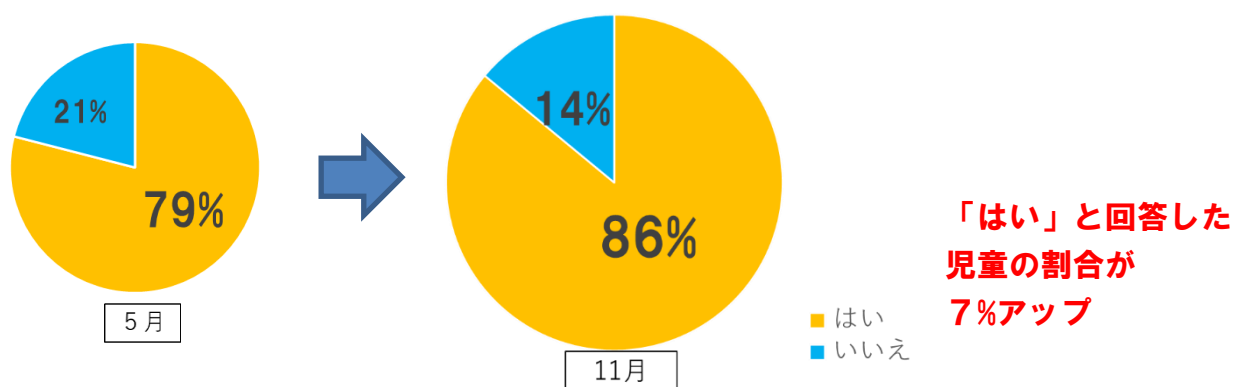
(2) 自分の家で災害に対する備えをしていますか。



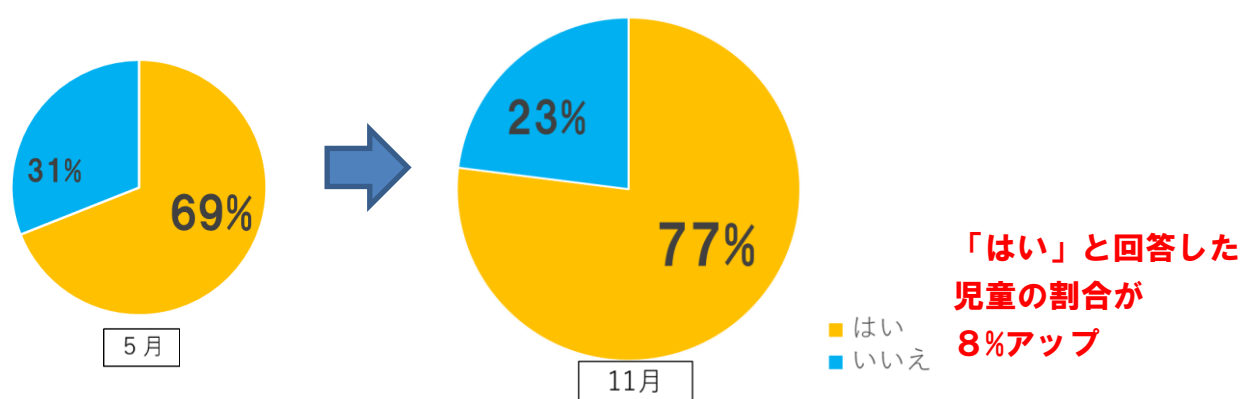
(3) 災害が起こったときにどうするか家庭で話し合ったことがありますか。



(4) 防災教育をうけて、防災への知識・理解が高まりましたか？



(5) 災害時（地震や土砂災害など）に、どのような行動をする必要があるか知っていますか？



- 成果指標として設定した項目については、いずれも実施前の数値よりも向上した。
- 拠点校において危機管理マニュアルを見直した。今後はこの内容を町内各校へ共有することで学校安全体制の底上げを図りたい。
- 拠点校において、学校全体で研修や防災教育に取り組むことで教職員の防災力が向上し、教職員一人一人が学校安全について考えるようになり、体制の強化を図ることができた。
- 児童が防災について正しい知識や実践力を身に付ける学習を進めることで、児童の防災意識が高まり、日頃の防災活動及び災害発生時に自ら考え、主体的に行動できる児童が育った。
- 総合防災訓練や防災参観日の実施など、家庭、地域や関係機関と連携して防災教育に取り組んだことで、学校、家庭、地域の防災意識が高まり、防災・減災に向けた協力体制がさらに強化されたとともに、非常変災時の混乱に備える実践的な取組を行うことができた。

4 今後の課題

- 本事業により学校安全体制や地域・関係機関との連携の強化は図れたものの、地震などの大規模災害時における避難所開設時の学校運営体制については未だ定まっていない部分も多い。将来発生するであろう大規模災害に備え、避難所の運営や在り方について、今回の事業をきっかけに関係機関や地域との連携をより深め、協議を継続する必要がある。
- 本事業を一過性のものとはせず、いつ起こるか分からない災害に備えて、今後も持続的・継続的な取組になるよう、防災教育の教育課程への位置づけを工夫していく必要がある。